

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20035

建築物名称	プラウド武蔵新城ステーションマークス
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 事業推進三部長 山田 岳人
建築物の所在地	川崎市中原区新城一丁目200番51
設計者氏名、建築士事務所名	渡邊 基弘 株式会社長谷工コーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	8,889.10㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上15階
工事完了予定年月	令和5年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

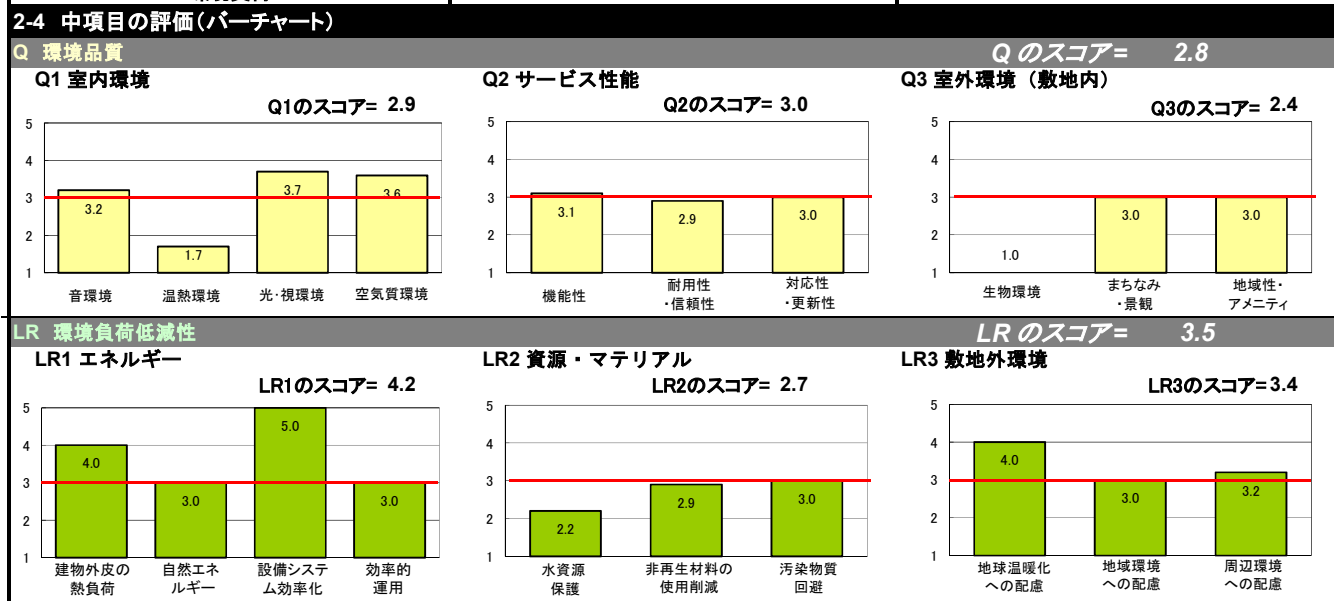
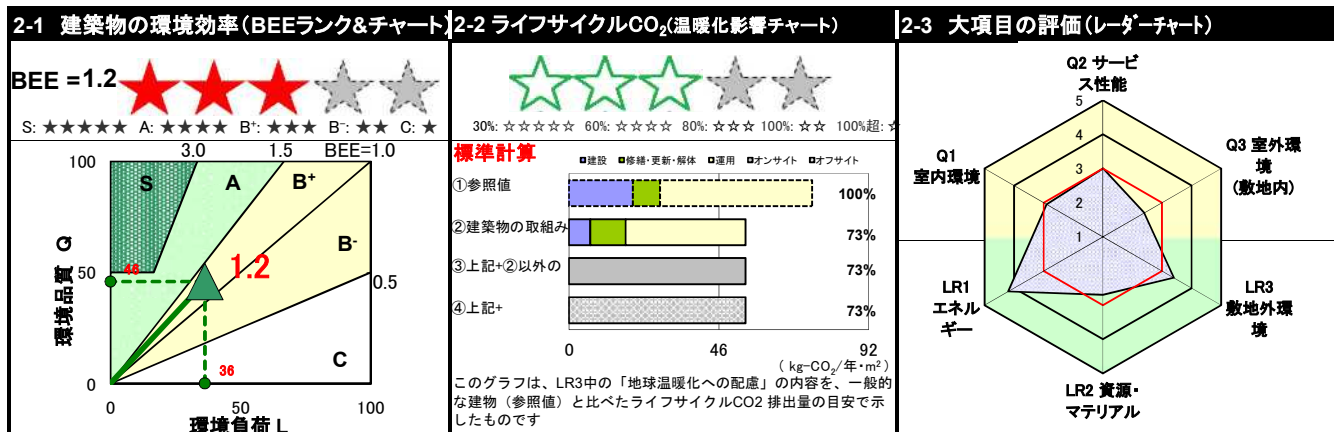
Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		20035
建物名称	ブラウド武蔵新城ステーションマークス	階数	地上15F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市中原区新城一丁目200番51	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	340 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2020年11月16日	
敷地面積	1,285 m ²	作成者	瀬戸口 嵩	
建築面積	808 m ²	確認日	2020年11月19日	
延床面積	8,889 m ²	確認者	瀬戸口 嵩	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合		
2 まちなみ・景観への配慮	沿道に沿って緑を配置することにより、街並み・景観に配慮しました。	2.0/4.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	バルコニー及び、カーテンレールの設置	2.6/3.4	3.8
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	水平投影面積率20%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.72	4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.6/4.7	2.8
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3を取得	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。LGS工法を使用。	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針に適合		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	水平投影面積率20%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.72	4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3を取得	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.72	4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点		重み係数
	G	W	R	H							
Q 建築物の環境品質										2.8	
Q1 室内環境								0.40		-	2.9
1 音環境							3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル							3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音							3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能					T2以上を確保		3.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					RC界壁厚さ=200mm以上を確保		3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音							3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境							3.0	0.35	1.5	1.00	1.7
2.1 室温制御							3.0	0.50	2.1	0.50	
1 室温							3.0	0.63	1.0	0.63	
2 外皮性能		W			断熱等等級4を確保		3.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性							3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御							3.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式							3.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境							2.7	0.25	4.0	1.00	3.7
3.1 昼光利用							4.2	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率					エントランス昼光率6.7%を確保 Dタイプ昼光率2.4%を確保		5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口							3.0	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策							1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W			庇とカーテンを組み合わせてグレア対策している		1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度							3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御							3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境							3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策							4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					ほぼ全体的にF☆☆☆☆を使用している。		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気							3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量							3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮							3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視							3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御							3.0	-	-	-	

Q2 サービス性能					3.0	0.30	-	-	3.0
1 機能性					3.0	0.40	3.2	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	4.0	0.60	
1	広さ・収納性				3.0	-	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応			インターネットのように100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能	3.0	-	4.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3	内装計画				3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.5	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	R		住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	5.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		ビニルクロス貼耐用年数20年	4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		給水:SUS(C)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				1.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり			階高2.92mを確保	3.0	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.5	
LR1 エネルギー										4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得 BEI0.88 基準消費エネルギー6,397.5GJ/年		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		W		H			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEI][BEIm] = 0.72		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用							3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング		W		H			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H			3.0	-	-	-	
集合住宅の評価							3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル										2.7	
1 水資源保護		W		R			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水							1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減		W		R			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R	-		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W					3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W					3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境										3.4	
1 地球温暖化への配慮		W			ライフサイクルCO2 73%		4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮							3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				R			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				R			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				R			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				R	ディスプレイを設置		4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
1 騒音							3.0	1.00	-	-	
2 振動							-	-	-	-	
3 悪臭							-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制							3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制							3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制							4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					広告物照明を行っていない		5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-	

20035

プラウド武蔵新城ステーションマークス

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に基づいています。